

RUNUP!! FUKUSHIMA

第5号

Tokyo2020 オリンピック
聖火リレーふくしま情報紙

発行日 / 令和3年3月16日

発行元 / 福島県オリンピック・パラリンピック推進室

olipara_suishin@pref.fukushima.lg.jp 024-521-7312

県選出の聖火ランナーが決定！

福島県実行委員会が選出する県内各市町村にゆかりのある公募ランナー59人と県の推薦枠ランナー（PRランナー）7人の計66人が決定しました。今回は、県選出の聖火ランナーの皆さんをご紹介します。

PRランナーの皆さん



© YOSHIMOTO KOGYO CO.,LTD.

しずちゃん (芸人、女優)

走行日・区間: 3月25日(木)・いわき市
県との関わり: 常磐ハワイアンセンターを舞台にした映画「フラガール」に出演。

『「フラガール」の撮影では、たくさんの福島の人たちに支えてもらいました。福島のみなさんに力をもらったことを思い起こしながら、少しでも多くの人々に笑顔届けられるよう、そして、第2の故郷である福島魅力を発信できるよう、一生懸命走りしたいと思います。』



© Yusuke Kashiwazaki PATHFINDER

室屋 義秀さん (エアロパティック・パイロット)

走行日・区間: 3月25日(木)・南相馬市
県との関わり: ふくしまスカイパークを拠点に活動。福島県民栄誉賞受章。福島市在住。

『エアレースパイロットとしてキャリアを歩む中で、活動拠点である福島は特別な場所です。大好きな福島の空を見上げながら、これまでお世話になった方々への感謝の気持ちを胸に、多くの人に笑顔の輪が広がるよう、心を込めて走りしたいと思います。』



菊池 桃子さん (女優、戸板女子短期大学客員教授)

走行日・区間: 3月26日(金)・福島市
県との関わり: 連続テレビ小説「エール」で、福島市出身の作曲家古関裕而氏の母親役を演じる。

『「エール」の福島ロケでは、多くの方々にエキストラとして御協力いただき、温かい雰囲気と優しい福島弁に包まれた思い出深い現場となりました。多くの人を元気づけ、励まし続けた「古関裕而メロディ」を心の中で奏でながら走りしたいと思います。』



遠藤 尚さん (オリンピック (スキー・フリースタイル))

走行日・区間: 3月26日(金)・猪苗代町
県との関わり: 3大会連続で五輪に出場し、バンクーバー大会では7位入賞。猪苗代町出身。

『これまでのモーグル人生でお世話になった福島の方々への感謝の気持ちを思い出し、また、コロナ禍で困難な状況に直面している方々に少しでも明るい心の灯火がともるよう、しっかりと聖火をつないでいきたいと思っています。』



大林 素子さん (オリンピック (バレーボール))

走行日・区間: 3月26日(金)・会津若松市
県との関わり: 3大会連続で五輪に出場。会津若松市に二地域居住。

『人の温かさ、食事のおいしさ、お酒のおいしさ、そんな大好きな福島県の魅力を発信しながら、聖火ランナーとして福島の地を走れることをとても楽しみにしています。』



千葉 麻美さん (オリンピック (陸上競技)、公務員)

走行日・区間: 3月27日(土)・郡山市
県との関わり: 北京五輪出場、陸上女子400mの日本記録保持者、矢吹町出身。

『これまでたくさんの方からの御支援や応援が私の背中を押してくれました。そんな方々への感謝の気持ちを込め、そして、県内の多くの子どもたちにオリンピックを身近に感じてもらえるよう、笑顔で楽しみながら走りしたいと思います。』



箭内 道彦さん (クリエイティブディレクター、東京藝術大学教授)

走行日・区間: 3月27日(土)・郡山市
県との関わり: 県クリエイティブディレクター、県しやくなげ大使などを歴任。郡山市出身。

『当初、灯を感じた「復興五輪」という言葉が萎んでしまっている今…、それでも福島県で聖火リレーが行われるのであれば、全国の、世界の人々に、東日本大震災から10年後の福島の現在を見てもらうために、故郷の道を走ろうと思います。』

福島県では次の基準で聖火ランナーを選出しています

『復興・不屈の精神』や『違いを認めあう包容力』といった大会組織委員会で定める聖火ランナー選定の考え方に加えて、福島県の聖火ランナーは①本県(地域)の現状や魅力を発信するのにふさわしい方②県民(住民)に夢や希望、元気を与えることができる方③その他(リレーの盛り上げに資する方、地域の未来の担い手となる方など)といった考え方を踏まえて選定しています。



各市町村ゆかりの公募ランナーの皆さん

1 日目 2021年3月25日(木)

No.	走行区間	氏名	性別	職業等	ゆかりの市町村	ランナーの横顔 (応募時点)
1	檜葉町	阿部 聖央	男性	陸上自衛隊	檜葉町	・小学三年生で震災を経験し山形県へ避難したが、現在は帰還し、ふたば未来学園高校に通学。 ・ふくしま駅伝の檜葉町チームの中心選手として活躍。
2	広野町	荒川 礼奈	女性	高校生	広野町	・中学校入学と同時に広野町へ帰還し、ふくしま駅伝の広野町チームに参加し活躍。 ・現在、ふたば未来学園高校の陸上部に所属。
3	川内村	山中 力	男性	会社員	川内村	・避難解除後、いち早く帰村し、障がいがあってもできることとして、「がんばっぺ・福島・川内」と書いたオリジナルTシャツを着て各地のフルマラソンに参加し、村の復興をアピール。
4	いわき市	渡辺 陽瀬	男性	中学生	いわき市	・小学三年生から陸上競技のスポ少に所属。四倉のねぶた祭や復興リレーに参加し、いわき市の復興や活性化に貢献。 ・震災により運動が制限された等の経験から、指導者となり、たくさんの人にスポーツの楽しさを伝える夢を持つ。
5	富岡町	児玉 桃心	女性	中学生	富岡町	・震災時3歳で、震災時の記憶はあまりないものの、様々な方からの支援により楽しい学校生活を送れたことから、聖火ランナーとして走ることで、世界中の方々に元気な姿を見せて恩返ししたいという思いを持つ。
6	葛尾村	佐久間 亮次	男性	高校生	葛尾村	・毎朝家業の酪農を手伝っており、聖火ランナーとして走ることで、葛尾村の農業を世界に向けてPRし、葛尾村が頑張っていることを世界に伝えたいという強い思いを持つ。
7	双葉町	桜庭 梨那	女性	役者・声優	双葉町	
8	大熊町	坂本 ちほ	女性	会社員	大熊町	・ふくしま駅伝に中学1年生から大熊町のランナーとして参加。全国都道府県対抗女子駅伝や全国実業団女子駅伝でも活躍。 ・走りを通じて大熊町民に勇気と元気を与えたいと考えている。
9	浪江町	池田 泉	女性	教員	浪江町	・浪江町で生まれ育ち、高校時代にはソフトボールで全国大会に出場。 ・震災時は母校の教員として勤務しており、避難指示区域となっていた時期から、母校の整備をするなど、復興に向けた活動を続ける。
10	南相馬市	早坂 優一	男性	中学生	南相馬市	・吉岡徳仁氏による聖火トーチデザインの原点となった、石神第一小学校での桜の絵画作成に参加した児童。その桜のトーチを持って走りたいとの思いを持つ。

2 日目 2021年3月26日(金)

No.	走行区間	氏名	性別	職業等	ゆかりの市町村	ランナーの横顔 (応募時点)
11	相馬市	鈴木 莉桜	女性	中学生	相馬市	・震災からの復興と発展を強く祈念して走るという強い意志を持つ。 ・バレエやダンスを通して学んだ表現の楽しさを活かして、元気に走る姿で、復興の支えになったり、観覧者に元気を届けたいとの思いを持つ。
12	飯舘村	庄司 幸智	男性	中学生	飯舘村	・避難先の福島市から飯舘村の中学校に通学し続ける。 ・「ホスタウンサミット」に参加した経験から、村の復興とこれまでお世話になった方々への感謝を発信したいという思いを持つ。 ・中学校の卒業式の当日に震災を経験。
13	新地町	鶴岡 拓弥	男性	会社員	新地町	・聖火ランナーとして走ることで、忘れられない、つらい思い出となってしまった震災の記憶を乗り越え、新地町の復興が進んでいる姿に発信したいという強い意志を持つ。
14	川俣町	上部 星	男性	高校生	川俣町	・原発事故で避難生活を送るが昨年帰還。聖火リレーでは地域住民の支援に対する感謝の思いを伝えたいと願う。 ・ 中学校時代 全校生徒3名のまとめ役的な存在で、帰還住民との交流にも努める。
15	福島市	齋藤 正昭	男性	会社員	伊達市	・4年前に中途視覚障がい者となったが、懸命のリハビリにより職場復帰を果たす。 ・県障がい者施策推進協議会の公募委員として活動するなど、視覚障がい者の自立と共生社会の実現を目指して活動。
16	福島市	進藤 あけ乃	女性	中学生	福島市	・「古閑裕而」氏の遠戚。・原発事故の影響で一時、家族別々の暮らしを経験。 ・所属する新体操クラブでは中心的な存在。中体連東北大会で2位となり、県大会、東北大会に向け練習に励む。
17	福島市	高野 心平	男性	中学生	桑折町	・前回の1964年東京オリンピック聖火リレーで祖父が聖火ランナーを務める。 ・長野オリンピック聖火リレーでは、叔父が聖火ランナー、父親がその伴走を務める。
18	福島市	半澤 滉憲	男性	高校生	国見町	・ふくしま駅伝に国見町チームのランナーとして3回参加。 ・校内の特設駅伝部部長を務めるなど、中学校陸上競技のエース的存在としてチームを牽引。
19	猪苗代町	大橋 清陽	男性	高校生	猪苗代町	・ふくしま駅伝では、3年連続で猪苗代町チームに参加し、主力選手として活躍。(※今年度で4年連続出場) ・学校での練習や自主トレに励み、県の大会においても優秀な成績を収める。
20	三島町①	五十嵐 望	男性	中学生	三島町	・三島町を愛する明るく元気な生徒。 ・聖火ランナーとして走ることで町を紹介し、元気にしたいという思いを持つ。
21	三島町②	猪俣 昭夫	男性	猟師	金山町	・長年にわたって、マガキとしての活動やミツバチの飼育等に取り組んでおり、町内外での知名度も高い。
22	三島町②	齋藤 幸弘	男性	会社役員	柳津町	・柳津町に在住し、長年町内の福祉施設で仕事に従事し、高齢者福祉に大きく貢献。 ・自身も、健康寿命を大切に元気で長生きできるように、日々の業務に励む。
23	三島町②	舟木 哲也	男性	自営業	昭和村	・自然豊かな環境で冬はスキー、夏は山や川遊びをして育つ。 ・地域の行事等に積極的に参加しており、地域コミュニティに大きく貢献。
24	喜多方市	池田 忠孝	男性	会社員	磐梯町	・町マラソンクラブに所属し、小中学生にも指導。 ・消防団や町の伝統芸能、まちおこしイベントへの参画など町づくりにも大きく貢献。
25	喜多方市	佐藤 正治	男性	会社員	喜多方市	・都内で就職したが、福島のために力になりたいと地元企業に再就職。スペインやハンガリー、メキシコなどの留学生を受け入れる。 ・聖火ランナーを務めることで、元気な福島を世界に発信したいとの思いを持つ。
26	喜多方市	清水 秀俊	男性	自営業	北塩原村	・東京から移住し、裏磐梯高原で地域初の体験型アウトドアスクールを開校。現在もインストラクターを務める。 ・自然保護指導員として、磐梯山、雄国沼湿原等の保護活動を行う。
27	喜多方市	鈴木 俊哲	男性	高校生	西会津町	・得意ではなかった「走ること」を努力し、ふくしま駅伝の西会津町チームで練習に励む。 ・また、自身の通う会津学鳳中学校の選手として県大会出場を決める。
28	会津若松市	遠藤 浩子	女性	教員	会津坂下町	・学生時代から陸上競技を続け、出産後も競技者として陸上を続け、ふくしま駅伝の会津坂下町チームのランナーとして6年間出場。 ・現在は、チームのコーチを務め、後進の育成にあたる。
29	会津若松市	菊池 正光	男性	自営業	会津若松市	・全盲の視覚障がい者。「障害者の明日を考える会」や「視覚障がい者と共に走ろう会」を発足し会長を務める。 ・会津若松市の障がい者計画等の策定委員会に参画。
30	会津若松市	齋藤 雅文	男性	医師	会津美里町	・四国出身。町内の病院に20年以上勤務。 ・日本体育協会のスポーツドクターや「ヴィレッジ」のサポーターなど、医療面でスポーツを支える。
31	会津若松市	白岩 雅夫	男性	会社員	湯川村	・長年にわたって、湯川村の基幹産業である米作りに従事。 ・消防団員としても今年度から団長に就任するなど、地域住民の安全・安心確保に大きく貢献。

3日目 2021年3月27日(土)

No.	走行区間	氏名	性別	職業等	ゆかりの市町村	ランナーの横顔 (応募時点)
32	南会津町	平野 太一	男性	中学生	檜枝岐村	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前からアルペンスキーを始め、東北、全国大会へ出場し、全国大会で優勝した経験を持つ。 ・ソフトボールで県大会出場したほか、部活動のバドミントン、陸上、駅伝など幅広い分野でスポーツに取り組む。 ・郡山市出身、南会津町(旧南郷村)在住。
33	南会津町	脇坂 斉弘	男性	会社役員	只見町	<ul style="list-style-type: none"> ・只見町の米生産者たちと「合同会社ねっか」を立ち上げ、米焼酎の酒蔵を経営。 ・平成23年に豪雨被害を受けた只見町の更なる復興と活性化のために、只見線を応援する寄付付きの商品を販売したり、米の収穫体験を通して交流人口の拡大に取り組む。
34	南会津町	渡部 陽稀	男性	大学生	南会津町	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトボールや野球に取り組み、特にスキーでは、2度のインターハイ出場や3年連続国体出場などを果たす。 ・スポーツが大好きで、将来は指導者になる目標がある。
35	下郷町	山田 武蔵	男性	自営業	下郷町	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま駅伝の下郷町チームの監督を務め、チームの育成に貢献。地元の子どもたちを中心に、走る楽しさを伝える。 ・大内宿在住で、経営するそば店では、ねぎそばを提供。
36	白河市	阿久津 光市	男性	団体職員	鮫川村	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度からふくしま駅伝鮫川村チームの監督を務めるほか、地域型スポーツクラブを立ち上げるなど、村民の健康づくりと地域づくりに貢献。 ・教育委員として、村の教育にも貢献。
37	白河市	石井 勇喜	男性	団体職員	埴町	<ul style="list-style-type: none"> ・関東でミュージシャンとして活動していたが、東日本大震災を機に、生まれ故郷の埴町へ戻る。 ・篠笛奏者としてイベントなどに積極的に参加し、福島県の復興や埴町の魅力を発信。
38	白河市	兼子 卓也	男性	会社員	泉崎村	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま駅伝の選手兼コーチとして長年にわたって活躍。 ・村内の小中学校での走法指導も熱心に行う。
39	白河市	小磯 洋四美	男性	会社員	中島村	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま駅伝の中島村チームのランナーとして、第1回から30年連続出場し、7回区間賞を獲得。 ・選手兼コーチとして、学生や社会人への指導も行う。
40	白河市	篠田 日向	女性	中学生	矢祭町	<ul style="list-style-type: none"> ・選手として東京大会に参加できないため、ランナーとして関わりたいの思いを持つ。 ・東京大会で警察官として警備の業務を担当する姉のように、人の役に立つ仕事に就きたいと考え、日々勉強などに励む。
41	白河市	原田 東	女性	教員	棚倉町	<ul style="list-style-type: none"> ・過去にふくしま駅伝の棚倉町チームのランナーとして参加。 ・子どもたちと走ることや運動することを楽しんでいる。
42	白河市	藤田 敦史	男性	大学職員	白河市	<ul style="list-style-type: none"> ・駒澤大学時代は4年連続箱根駅伝に出場。区間賞を獲得するなど、男子マラソンの日本トップクラスの選手として活躍。 ・男子マラソン元日本記録保持者。現在は、駒澤大学陸上競技部ヘッドコーチ。
43	白河市	三科 文	女性	高校生	西郷村	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生時代から全国規模の大会で活躍し、県大会、東北大会の中長距離で優勝。 ・将来オリンピックに出場する夢を持ち、努力を続ける。
44	白河市	矢吹 正男	男性	直売所 営業	矢吹町	<ul style="list-style-type: none"> ・高校在学中に1964年東京オリンピック聖火リレーの正走者として白河市内を走行。 ・57年前の東京オリンピックを思い浮かべながら、もう一度トーチを持って走りたいの思いを持つ。
45	本宮市	後藤 克浩	男性		大玉村	
46	本宮市	野地 裕太	男性	会社員	二本松市	<ul style="list-style-type: none"> ・中学、高校時代にカヌー競技に打ち込み、高校時代には国体で優勝。 ・現在も、二本松市内の阿武隈漕艇場で実施されるカヌー教室で指導を行う。
47	本宮市	松本 襟加	女性	会社員	本宮市	<ul style="list-style-type: none"> ・本宮市のコミュニティ放送局に勤務し、日々、地域の情報発信を行う。 ・女性だけで担ぐ「真結女御輿(まゆみこし)」の幹事役員として日本全国の祭りに参加し、本宮市のPRを行う。
48	須賀川市	阿部 泰聖	男性	高専生	平田村	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらた清風中学校時代には生徒会長を務め、スポーツでは空手の世界大会に出場。 ・現在は「廃炉作業のできるロボットを作ること」を目標に、福島高専で勉強に励む。
49	須賀川市	木戸 望乃実	女性	中学生	石川町	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技1500mで、小学5年生、6年生と福島県代表。 ・陸上競技でオリンピックに出場するという夢の第一歩として、聖火ランナーになりたいという強い思いを持つ。
50	須賀川市	君原 健二	男性	オリンピック	須賀川市	<ul style="list-style-type: none"> ・1964年の東京オリンピックから、メキシコシティ、ミュンヘンの3大会連続でオリンピック出場。メキシコシティオリンピックでは銀メダル獲得。 ・1964年の東京オリンピックで、円谷幸吉さんとともに出場。 ・「円谷幸吉メモリアルマラソン大会」では、平成元年から特別招待選手として参加。
51	須賀川市	関 蒼	男性	高校生	鏡石町	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡石町のスポーツ少年団(剣道)に小学校2年生から現在まで加入。競技力向上やスポーツを通じてコミュニティ形成を図るため積極的に活動。 ・塾や習い事の送り迎えをしてくれる祖父に、聖火ランナーとして走ることで感謝を伝えたいの思いを持つ。
52	須賀川市	宗田 幸夫	男性	会社員	古殿町	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふくしま国体」の炬火ランナーとして古殿町内を走行した経験を持つ。 ・福島県の復興を発信するため、聖火ランナーとして走りたいという強い思いを持つ。
53	須賀川市	常松 桜	女性	学生	天栄村	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障がいがあるが、フロアバレーボール部に所属し、3年連続で全国大会に出場。 ・聖火ランナーとして走ることで、全国大会に出場して体験できたスポーツの素晴らしさや、サポート・応援してくれる方へ感謝を伝えたいの思いを持つ。
54	須賀川市	溝井 賢一郎	男性	無職	玉川村	<ul style="list-style-type: none"> ・玉川村体育協会の副会長、会長を長年務める。 ・ふくしま駅伝玉川村チームの監督を10年間務めたほか、総合型地域スポーツクラブの会長を務めるなど、村の体育振興に貢献。
55	須賀川市	八木沼 和夫	男性	会社員	浅川町	<ul style="list-style-type: none"> ・ふくしま駅伝の浅川町チームとして、30回連続出場。 ・仕事の合間をぬってトレーニングに励み、フルマラソンを含む各種大会で上位に入賞。
56	田村市	佐久間 辰一	男性	農業	田村市	<ul style="list-style-type: none"> ・元農業高校教師で、地元のボランティアグループの会長として、ひまわり畑を整備し、ひまわりを使ったイベントを企画運営するなど、地区の地域振興に貢献。 ・絵本の主人公のモデルにもなる。
57	郡山市	石川 由乃	女性	高校生	郡山市	<ul style="list-style-type: none"> ・田村高校の陸上競技部に所属。高校駅伝や高校総体東北大会に出場。 ・日々のトレーニングで鍛えた躍動感溢れる走り、県民に感動を与え、地域の一体感や活性化に貢献したいという強い思いを持つ。
58	郡山市	大桃 ひなた	女性	高校生	三春町	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校生活の集大成として、高校生活の良いスタートを切れるよう、聖火ランナーを志望。 ・ふくしま駅伝のエントリーメンバーとして、チームを支える存在。
59	郡山市	根本 穂波	女性	高校生	小野町	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ではバレー部で活躍。陸上砲丸投げでジュニアオリンピック福島県代表を目標に練習に励むほか、ふくしま駅伝の小野町チームにも参加。

只見の魅力、発信したい



脇坂 斉弘さん
只見町ゆかりのランナー。合同会社ねっか代表社員。只見町の米生産者たちと「合同会社ねっか」を立ち上げ、米焼酎の酒蔵を経営。

「ねっか」はどんな酒蔵ですか

只見町の主力の米作りを守るために、単一品種のコシヒカリだけでなく、収穫時期が違う品種を育てるため酒米に目を付けたんですが、その酒米を使う酒蔵が欲しかったです。日本酒の酒蔵は新規参入が難しいというところがあり、特産品焼酎免許なら新規で取れるということで、2016年に地元農家の皆さんと一緒に米焼酎の酒蔵としてこのねっかを設立しました。

今後の目標を教えてください

焼酎のメリットとして、常温で寝かせることができるということがあります。5年10年と保存し、未来に残すことができます。そのメリットを生かし、地元の小学校5年生に田植え、稲刈りをしてもらい地域のおいしいお米を知ってもらって、その後、会社で焼酎をつくり、オリジナルのラベルを貼ってもらう。9年後、彼らが20歳になったときにそれを贈る、という取り組みを行っています。

聖火ランナーに応募したきっかけは何ですか

自分の人生の中で、オリンピックに出会える、まして日本ということなどはなかなかないことだと思います。その中で、少しでもこの大会に関わりたいと思っていました。只見町は東京23区と同じぐらいの面積で、そこに4千人しか住んでいない小さな町です。2011年、東日本大震災の年、この地方は豪雨災害があり、只見線も不通になってしまいました。復興している姿を地域の皆さんと一緒に発信し、さらに地域に盛り上がりが生まれればいいなと思い応募しました。

聖火ランナーに選出された時は、地域の人も「脇坂はねっかで頑張っている」「只見町の代表だ」と喜んでくれました。

聖火リレーでは只見の魅力の発信と、只見の思いを胸に走りたいと思います。

「東日本大震災で避難されていたとお聞きしました」

震災の日は仕事が出来ませんでした。原発事故が起こって、勤務していた大熊町の病院にもいけないというので、自宅にいました。

その後、全村避難の指示が出て、親戚を頼りに栃木県に避難しました。

勤務先の病院は廃業に追い込まれ、失業も経験しました。

避難が解除された後、高齢の父親が村に帰りたいということで、帰村を決意しました。戻ってきた当初は自宅もひどい状態で、若い人たちも少なかったです。生活するにも不便

感謝の思い込め、ふるさとを走る

な状況でした。震災前は隣の富岡町で買い物をしていましたが、原発事故の影響でそちらには行けず、遠くの田村市まで行っていました。

震災後、避難先で「福島人は近寄るな」などひどいことを言われた人がいました。今もなお避難している人もいます。

震災前から東京マラソン、大阪マラソンも走ったことがあります。いろいろな大会に「がんばっぺ！福島川内」と書いたこのTシャツを着て出場すること、そうした避難先で苦

しんでいる人たちに、私が走っている姿を見てもらって、少しでも元気になってもらいたいなと思います。

また、福島を応援する、川内を知るきっかけになればと思っています。

「聖火ランナーに応募したきっかけは何ですか」

原発事故の被害者の一人として、一家離散を経験し、失業を経験し、障がい者でもあります。そんな自分でも、地元の川内村で聖火リレーが通るということ、ぜひオリンピックに関わってみたいと思ひ応募しました。

世界の人たちのご支援で、川内はここまで復興しました。その感謝の思いを込めてふるさと川内の代表として走りたいと思います。

川内村の良いところを教えてください

川内は自然が豊かで、本当に良いところだと思います。子育てするにも良い環境です。もっと若い世代が戻ってきて、子供たちの声が聞こえるようになってほしいですね。産業も活性化してくれたいですね。



山中力さん

川内村ゆかりのランナー。障がいがあってもできることとして、「がんばっぺ！福島・川内」と書いたオリジナルTシャツを着て各地のフルマラソンに参加し、村の復興をアピール。

川内は自然が豊かで、本当に良いところだと思います。子育てするにも良い環境です。もっと若い世代が戻ってきて、子供たちの声が聞こえるようになってほしいですね。産業も活性化してくれたいですね。